

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス おりーぶせらびー			
○保護者評価実施期間	令和7年10月9日 ~ 令和7年11月15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数)	12名
○従業者評価実施期間	令和7年10月9日 ~ 令和7年11月15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月13日			

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	理学療法士・公認心理師・保育士・学校教諭・特別支援学校教諭・幼稚園教諭・音楽療法士・社会福祉士など、各専門分野の資格を持っている職員があり、それぞれの専門性を生かして支援に取り組んでいます。	画一的ではなく、子ども達一人一人に必要な専門的支援を職員間で考え、一人一人に合わせた計画と目標を立て個別に、或は小集団で専門的支援を行っています。子ども達は大変楽しみにしており、毎回集中して取り組んでいます。特に小集団での学びは、意外な相乗効果をもたらしてくれる場合があり、お互いを意識し合いながら、より楽しく学ぶことが出来ています。	子ども達は回を追うごとに集中する力が伸びてきています。しっかりと身についたものや、もう少しで完成しそうなものまで差はあるものの、確実に成果に結びついています。今後も、個別の学びと集団での学びとをうまく組み合わせて、それぞれのメリットを活かして専門的な学びの時間の充実を図っていきます。
2	子ども達が楽しく学んできたことを取り入れた、楽しいイベントを企画しています。	イベントは基本的に何かしらの学びの要素を取り入れたものとなっています。今年度は初めて保護者やきょうだいなど家族の方を招いて、日頃練習に取り組んでいる「カフェの接客」を披露し、ご家族の方からも「成長が見られて良かった」と好評をいただきました。	今後も色々な学びが楽しいイベントになるように、そして成長した姿を皆様に披露出来るように、スマールステップを積み重ねていきたいと思います。
3	ご家族へのレスパイトケアとして、子ども達が安心して過ごせる場所としての役割を担っています。	放課後から保護者の方が勤務先から帰宅されるまでの間、療育とともに、居場所としての役割をに担っています。安心して子ども達が過ごせるように、デイでの様子を保護者様に、送迎時に、或は連絡帳にて詳しくお伝えするようにしています。	子ども達は成長とともに新たな問題点や、課題が生じる場合があります。ひとつひとつ対策を講じながら、安全に過ごせるよう支援していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	重度の障害をお持ちのお子さんが多く、年齢が上がってくにしたがって生じてくる問題に、対応することが難しくなってきています。	重度の障害をお持ちのお子さん達が第2次性徴を迎えるにあたり、性教育や相手との適切な距離や適切な接し方などを教えることが難しく、今後の成長に職員自体がスキル不足で不安を抱えてしまっています。	「重度の障害児向けの性教育」というものに対する文献が少なく、個人差も大きいため、改めて職員同士で研修と会議を重ねていきます。長年支援している子どもさんひとりひとりに対してどう対応すべきかを、保護者様や学校と連携し情報共有を行なながら、全職員で検討していきます。
2	保護者様やきょうだいの方に対する支援が十分に出来ていないと感じています。各家庭で抱えている問題や不安などを気軽に相談できるような余裕を持ち合わせておらず、保護者会やペアレンストレーニング、きょうだいの方に対するケアなどが実施できていません。	特に重度の障害をお持ちのお子さんの保護者の方が、常に漠然と抱えていらっしゃる学校・放ディ卒業後の将来の不安に対して、うまくアドバイスが出来ていません。重度ならではのきょうだいの方の心の状態など、寄り添たり慮ったり、きょうだいの会などの企画など出来ていないのが現状です。	まず職員自身が、子ども達に将来どのような選択肢があり、成人以後の卒業生の生活や、施設などの現場の状況を「知る」事から始めていきたいと思います。きょうだいの方にデイから何が出来るのかを含めて、家族支援の在り方について改めて考えていきたいと思います。
3	地域に開かれた施設、インクルージョンへの対応が十分でないと思います。重度の障害をお持ちのお子さん達の外出が難しく同世代の近くの公立学校との交流も出来ていないのが現状です。	開所より約5年、地域に根差した施設にはなっていません。要因としてはまず交流がB型作業所やお祭り以外で出来ていないからです。せらべーのお子さん達をどうやって交流していくのか、色々企画は立てるのですが未だに実行に移すことが出来ていません。	交流を打診した学校もあります。しかしながら現実で出来ていません。学校だけでなく、今後は老人介護施設や障害者入居施設、保育園など少し幅を広げて交流を企画・打診していきたいと考えています。

## 公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス おりーぶせらびー				公表日 令和 8年 1月 16日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		必要に応じて2Fスペースを活用している。	部屋の真ん中に階段がある構造で狭く感じるが、手に届く範囲に皆が居る事で安心感がある。しかしもう少し2Fや個室の活用を図りたい。
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	2	利用する子どもの人数に対し、基本的に必要な人員配置を行っている。	特に子どもが不安定になっている時など、子どもの状況によっては職員不足と感じる時があり、手立てが限られてしまう。1ヶ月のシフトでは柔軟に対応できない時がある。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	1	教室の床はクッション性の高いマットを敷いており、トイレも段差がなくバリアフリー構造になっている。トイレも並んで2つ設置し、1つは重度の障害をお持ちのお子さんのトイレ介助がしやすいように、広い空間のあるトイレとなっている。	空間を整理整頓する事で心理的視覚的に良い効果があると思うので心掛けたい。玄関の上がり框の高さが気になる。教室の内装の木材がささくれでいて気になる。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		子ども達が帰った後に毎日掃除をしている。使用した机などアルコールで拭いたり、おもちゃを洗って消毒するなど衛生面に配慮している。	今後も継続して、常に清潔で心地よい環境が維持できるよう努めていく。
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		専門的な学びを行う時など集中する必要がある時、あるいはパニックになってクールダウンをする必要がある時に、別室を職員と一緒に使用したり、動きたいときは2Fの広い空間を使用できるようになっている。	物が多くなかなか十分スペースが使えていないが、職員が時間を見つけて整理や片付けを行って、少しずつ改善している。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10		適宜職員会議を行っている。職員に広く意見を聞いている。	国の制度が改定されていく度、どの職種も業務の負担が増えている。職員の負担ばかりが増え、本来子どもに費やす時間が減っている
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		アンケートは保護者からの意見や思いを知る貴重な機会となっている。出来るだけ保護者の意見は反映していくと考えている。	保護者の意向にまだ添えられていないところがあり、実施できるよう努めていきたい。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		従業員アンケートは保護者アンケートとともに集計して職員で回覧している。職員の意見は出来るだけ反映していくと考えている	国の色々な制度が改定されていく度、どの職種も業務の負担が増えている。職員の負担ばかりが増え業務改善が一向に進まない。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	1	第三者による外部評価は検討している。	第三者による外部評価はまだ検討段階である。まずは行政書士による評価を行っていく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		外部研修・内部研修を行っている。年間研修計画書に従って、法定研修他、ドライバー研修や、安全研修、事故防止研修などを行い、日頃の支援に活かせるように心掛けている。	今後も継続して、年間研修計画に従って内部研修、外部研修を受ける機会を確保し、職員ひとりひとりのスキル向上を図っていく。
適切・ ++	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		職員で意見を出し合い、皆で支援プログラムを作成し、HPで公表している。	今後も継続して支援プログラムの方向性に沿って、日々の支援を実施していく。
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10		約半年に1回保護者面談を行い、保護者と子供のニーズと課題を分析、職員の意見を聞き、個々の子どもに合わせた個別支援計画書を作成している	今後も継続して、定期的に面談を実施、個々の子どもに必要な支援が出来るよう、適切なアセスメントを行い個別支援計画を作成する
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		個別支援計画の作成に当たっては、日頃支援に携わっている職員に広く意見を求めて検討し、個別支援計画を作成している。	今後も広く職員に意見を求め、検討を重ねて計画を立てていく
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		職員で定期的に子どもの支援についてカンファレンスを行い、支援の方向性について共有している	今後も計画に沿った支援が出来るように個別支援計画を共有していく。
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10		保護者様から提供があった発達検査の結果を参考にしながら、実際には独自で作成したインフォーマルなアセスメントを使用している	今後もフォーマルアセスメントを参考に、インフォーマルな、より分かりやすいものを使用し、適宜より良いものに改善していく。
適切・ ++	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		必要な項目に沿って5領域にわたる具体的な支援内容の計画を立てている。個々の子どもに合わせて必要な支援が出来るような計画になるよう心掛けている。	今後も継続して「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」の項目が適切に設定され、さらにその上で5領域にわたる具体的な支援が設定された個別支援計画を作成できるようにしていく。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		今は色々な職員が活動プログラムやイベントの企画に少しずつ関わってきている。	プログラムやイベントの立案など、一部の職員の負担が大きかった時期より、少し改善が見られている。今後もチーム立案を目指す。

支援の提供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		毎年恒例のイベントやプログラムに加え、新しいものを取り入れるようにしている。ただ楽しいだけでなく、必ず学びの要素を取り入れたものとなっている。	今後も継続して、色々な分野の活動を取り入れる事で、活動プログラムが固定しないよう努めていく。
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10		個別活動と、集団活動を組み合わせた計画を作成している。特にセラピスト等における専門的支援においては個別と集団それぞれの良さが際立ち、相乗効果が期待できる。	今後も継続して、個々の子ども状況に応じ、個別と集団を適宜組み合わせた計画作成と支援をしていく。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		特に体調面にに関しては支援途中でも必ず伝えるようにしている。役割分担などはホワイトボードに事前に記入している。	必要があればその場にいる職員で打ち合わせるが、出勤時間が違う、送迎に行く必要もあるので職員が一齊に事前打ち合わせするのが難しい。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9		帰りの送迎時に保護者から伝えられたことや体調面、心理面など気になる事があれば翌日出勤の職員にわかるようメモで情報共有。	勤務時間の関係で支援後の打ち合わせが出来ない。メモ等で情報共有を行っている。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		その日に担当した職員が、当日のうちに必ず記録を残すようにしている。セラピスト等による専門的支援記録も同じ。	今後も継続して、担当した職員がしっかり記録を残すようにしていく。
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		定期的に保護者との面談を行い、モニタリングを実施、個々の子どもの状況に合わせて個別支援計画の必要な見直しを行っている。	今後も継続して、定期的なモニタリングを行い、必要があれば計画の適切な見直しを行っていく。
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	10		基本活動は複数組み合わせており、子ども達にはいくつかの選択肢から選んで取り組むなど本人主体の活動に重点を置いている。	今後も継続して、4つの基本活動を軸に、いくつか組み合わせた支援を行っていく。
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10		本人に選択肢を提示して「どれをする？」と聞いて、本人の興味に合わせた活動に取り組む機会を設けている。	今後も継続して、子ども達に自己決定の機会を用意していく。
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		主に児童発達支援管理責任者が参加している。	今後は管理者や児発管以外でも、担当する機会が多い児童指導員も参画する機会を作って、職員ひとりひとりのスキル向上を図っていく。
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10		各学校及び市などの関係機関と連携をとる体制はとれている。	今後も継続して、各関係機関と連携をとっていく体制を取っていく。
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10		保護者から記入された予定表以外にも、各学校の行事予定表を毎月チェックして、下校時間を間違えないように確認している。	学校とは子ども達の様子等の情報共有の他にも下校時間の確認や、欠席の確認などを常に行っていいる。
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	10		出来るだけ契約後に保育園在園時に、実際に保育状況を見学に行き、担任の先生から詳しく話を聞くようにしている。	保育園卒園後に小学校入学、新規で放デイに通うには、大きく環境が変わってしまい、本来の姿が分からぬ場合があるので、出来るだけ色々な機関からの情報共有を図り、受け入れの環境を整え子どもの負担を少しでも少なくしていきたい。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	10		要請があれば情報提供をしている。	今後も要請があれば、放デイでの支援内容の情報を提供していく。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	10		モニタリングでの連携をはじめ、支援者会議などでも連携を図るようにしている。研修には出来るだけ参加するようにしている。	今後も継続して、連携を図り、助言や研修を受けられる関係性の構築に努めていく。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	7	2	今年度は近くの公立学校に交流の打診をしている。しかしこまだ実現に至っていない。	今後は少し視野を広げ、福祉施設や介護施設または近くの保育園など、交流対象を広げて検討していく。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	9	1	参加出来ていない。	今後は参加を検討していきたい。
	34 曜日から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		日々保護者とは子どもの様子などの情報共有を行い、問題点や課題などの支援の仕方について共通理解を持てるようにしている。	一人ひとり成長するにつれ、状況や課題が日々変化していくので、保護者とはこまめに気づいた事など伝え合えるような関係性を構築していく。
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレン特レーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	1	ペアレン特レーニングの外部研修などを受けているが、まだスキル不足で実施まで至っていない。	ペアレン特レーニングは実現するまでにまだ時間がかかる。その他に、適切な家族支援の手立てがないか模索している。
	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		契約時に行っている。	支援プログラムは今後随時説明していく。
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		個別支援計画書を作成する際、保護者面談を行い、ニーズや課題を確認している。意思表示が出来る子ども達には直接聞くようにしている。	面談の際に必ず、保護者様のご要望を聞くようにしている。今後も子ども達や保護者様の意向が反映されるような支援が出来るよう心掛けしていく。
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10		同意を得て保護者様にサインをいただいている。	今後も同意が得られるよう、保護者様や子ども達の意向を尊重した計画作成に努めていく。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		小学生のうちは身辺自立についてのご相談を何う事が多かったが、大きくなるにつれ将来の不安など、相談内容が複雑になり対応が難しくなってきている。	今後も継続して、子どもたちのみならず、ご家族の悩みに寄り添っていけるようなスキルを職員一人一人が持てるよう研鑽を重ねていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	1	今年度は保護者様やきょうだいの方をお招きして「せらびーカフェ」という接客の学習成果を披露した。作品展写真展も同時開催し、少しだけ交流の場を設けることが出来た。	スペースの問題もあるが、今後も保護者同士、きょうだいの方同士が交流できるような家族参加型のイベントを企画していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		すぐに管理者・児発管が対応している。	今後も継続して管理者・児発管が速やかに対応にあたり、報告書を作成し、報告・周知・改善を行い、再発防止に努める。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		毎月せらびーだよりを発行しており、SNSでも配信している。個別では保護者にはLINEを活用し、必要な情報を発信している。	今後も継続して、お便りやSNSで、必要な情報をご家庭へ発信していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		動画や写真などを配信する時は、個人が特定されないように画面を加工するなど、個人情報保護に配慮している。	今後も継続して、個人情報の取り扱いについて細心の注意を行っていく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		子ども達には言葉かけと同時にマカトンなど、日頃学校でも使用している動作を導入し、意思疎通がしやすいように配慮している	今後も言葉や身振りや動作、具体物などを使って意思疎通の配慮を行っていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	3	毎月、B型作業所が開催しているお祭りに、せらびーの子ども達も参加し、地域の方々とも触れ合う機会を持っている。	子ども達の特性上、難しい面もあるが、今後「地域に開かれた事業所」として地域に根差した活動が出来るよう努めていく。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10		「安全だより」を発行し、避難訓練の様子や感染症対策の職員研修の様子や取り組みなど、写真付きでお知らせしている。	今後も色々な災害を想定して、避難訓練の実施と、緊急時のマニュアルの周知を行っていく。
非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		BCP計画は策定しており、水防法における水害に対する避難訓練も行っている。	今後も継続して、災害に備えていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		今までの服薬・発作状況を聞いて、万が一療育中にてんかん発作を起こした時の対応について、事前に保護者と取り決めを行っている	てんかん発作のマニュアルを貼り出して、救急隊に繋ぐまでの手立てを、常に準備しているので、今後も継続して活用していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	1	医師の指示書に基づく対応はしていないが、保護者より聞いている情報の中で対応している。	今後もおやつや食べるものを提供する際には保護者と確認をしたうえで、アレルギーに対して万全な注意を行っていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		安全計画は作成しており、研修や訓練は行っている。	今後も継続して、安全計画に必要な研修等を行っていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10		安全計画に基づく取り組みや研修内容、訓練の様子など「安全だより」でご家庭にお知らせしている。	今後も継続して、「安全だより」等で取り組み内容などを周知していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		ヒヤリハットの事案が発生した場合、必ずヒヤリハット報告書を作成し、回覧している。	今後もヒヤリハットで留まるように、報告書を作成、注意喚起を行う。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		法人内で虐待防止委員会を組織し、各事業所にて研修等を行う機会を作っている。	今後も継続して、研修等の機会を作っていく、虐待防止に努めていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10		法人内で身体拘束適正化委員会を組織し、今後やむおえず身体拘束を行う場合に備えて、研修を行い、組織的な決定が出来るように準備している。	今はまだ、身体拘束までの事案はないが、今後も継続して委員会を中心、職員一人一人がしっかりと研修を行っていける環境を整えていきたい。